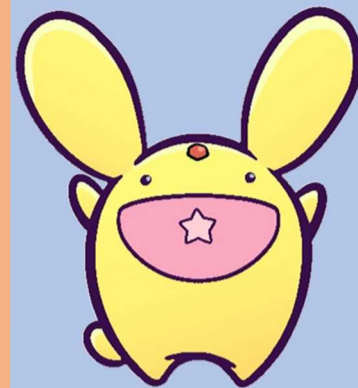


本校の活動が新聞で紹介されました。

高校生による高校生のための「ぷよぷよ」大会



「ぷよぷよeスポーツ」をプレーする生徒=いずれも一宮市小信中島の県立一宮起工科高で

大会の正式名称は「第一回工科高校eスポーツ大会」で、パズルゲーム「ぷよぷよeスポーツ」で競う。二つ連なって落ちてくる「ぷよ」を同じ色で四つ

以上そろえて消し、連続して消す「連鎖」の数で得点を競うゲームで、ぷよが落ちてくるわずかの数秒の間に配置を決めるスピードと判断力が求められる。十月のかごしま国体の文化プログラム「全国道県対抗eスポーツ選手権」でも正式種目に採用されている。

大会を企画したのはロボット工学科の三年生六人。プログラミングや電気回路を学んでおり、全員がゲーム好きだ。保育園からゲームに夢中という押領司聖平さん(こ)も「ゲームはレベルアップが目に見える。一度はクリアを諦めたゲームも、しばらく放っておくとクリアできるのが不思議」と語る。ゲームと勉強のメ

一宮起工科高生 28日に企画

(児島恵美)

オンラインで他校とつなぐ

大会を運営する3年生ら



リハリをつけるため、学校側はテストで赤点を取るとゲーム用パソコンの使用を禁じているといい、奥田隆斗さん(こ)は「テスト期間は毎日一夜漬けで乗り切る」と笑う。コンピューターと対戦し

て、ぷよで得点を稼ぐ定石を研究してきた内田真矢さん(こ)は一般のeスポーツ大会に出場経験があるが、歯が立たなかった。「プロは見ている分には面白いけど、対戦すると楽しくない」と苦笑い。それなら

「高校生だけの大会をつくらないか」と課題研究の授業時間を使って大会を企画。県内の県立工科高校に出場を呼びかけると八校が集まった。

生徒たちはソフトを提供するゲーム大手セガに大会運営のノウハウを教わり、対戦形式も自分たちで決めた。二校三チームまで参加でき、予選ではチームの順位に応じた得点で、学校対抗で競う。勝ち上がったチームで決勝トーナメントを行う。セガ担当者の小室祐生さん(こ)は「県内の工業高校をつなぐオンライン大会は全国でも例のない取り組み」と太鼓判を押す。

先月末に開いたプレ大会では、参加チームがログインできなくなるトラブルが起きるなど、大会運営の実務は苦労も多い。担当する大橋一生教諭(か)は「何事も一回ではうまくいかない。できるだけ多く問題点を探そう」と声をかけた。

当日は裏方を支える運営メンバーと出場するプレイヤーに分かれる。同校エースの上本太陽さん(こ)は「プレイヤーとしては最後の夏。チームのメンバーが負けても自分が絶対に勝つから任せろ、という気持ちで挑む」と意気込む。運営メンバーの押領司さんは「仲間が戦う舞台を整える仕事にやりがいを感じる。大会に関わる全ての人に楽しんでもらえたら」と話した。

「高校生だけの大会をつくらないか」と課題研究の授業時間を使って大会を企画。県内の県立工科高校に出場を呼びかけると八校が集まった。

生徒たちはソフトを提供するゲーム大手セガに大会運営のノウハウを教わり、対戦形式も自分たちで決めた。二校三チームまで参加でき、予選ではチームの順位に応じた得点で、学校対抗で競う。勝ち上がったチームで決勝トーナメントを行う。セガ担当者の小室祐生さん(こ)は「県内の工業高校をつなぐオンライン大会は全国でも例のない取り組み」と太鼓判を押す。

先月末に開いたプレ大会では、参加チームがログインできなくなるトラブルが起きるなど、大会運営の実務は苦労も多い。担当する大橋一生教諭(か)は「何事も一回ではうまくいかない。できるだけ多く問題点を探そう」と声をかけた。

(中日新聞 2023年8月22日(火曜日)朝刊 尾張版)

